

まちかどトーク【東五位地区】

地区の現状と 今後のあり方のひとつの提案

高岡市 生活環境文化部 地域課 令和8年1月8日

地域活動

通学時の見守り



生活道路の除雪



防犯パトロール



資源回収



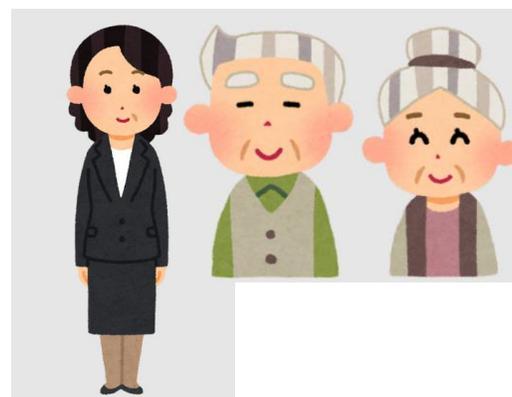
町内の清掃



除草



高齢者の見守り



獅子舞やお神輿



地域活動の目的

目的

地域の暮らしを支えること
「地域」と「行政」が協力

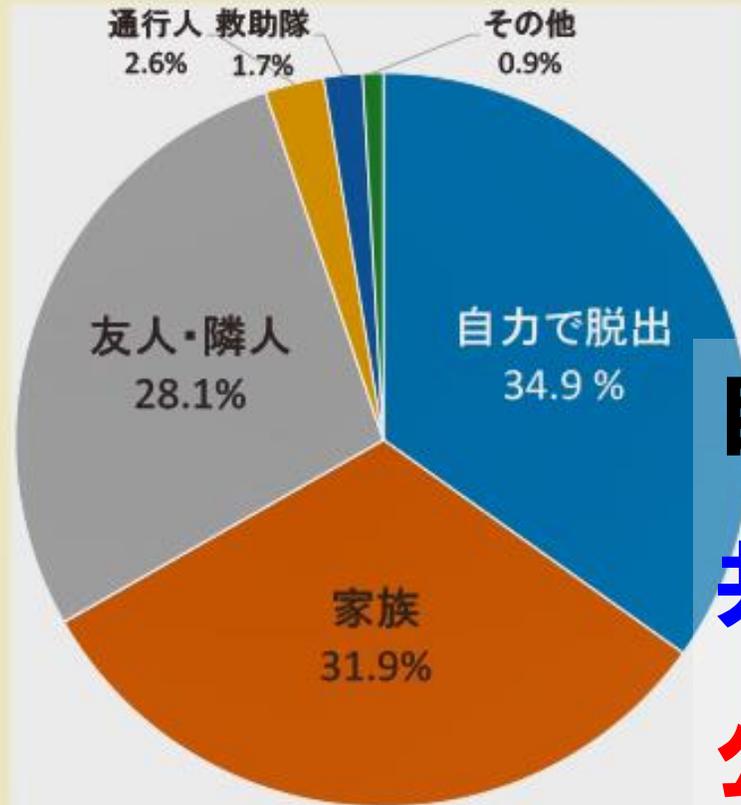
住むエキスパート
暮らすエキスパート

大切なパートナー

誰よりも地域の実情に詳しい！

阪神・淡路大震災の救助主体

図表 1-1-1 阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等



自助 35%

共助 60%

公助はわずか 1.7%

地域、自治会の実情

担い手不足が顕在化
負担感が増している

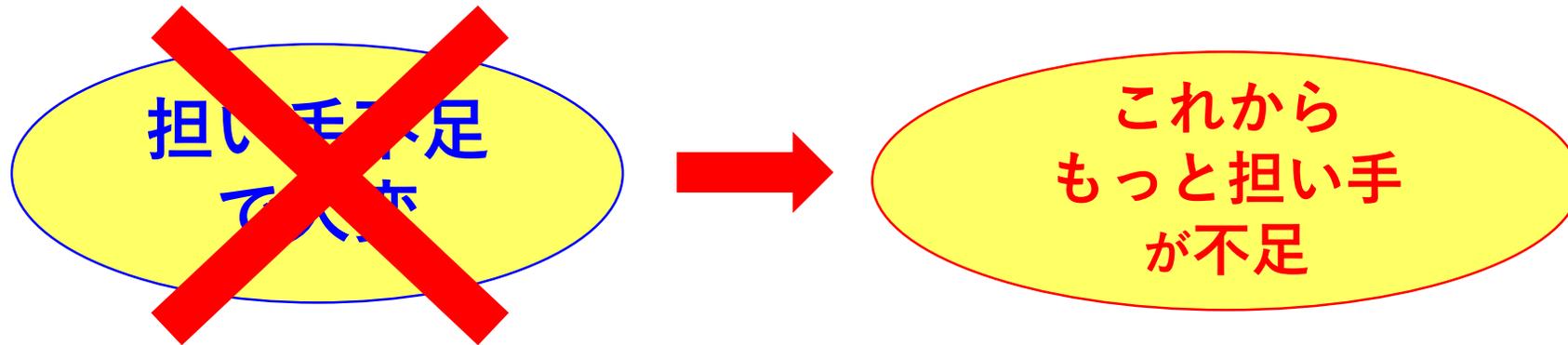
- 婦人会、老人クラブ、青年団、子ども会の解散がとまらない
- 自治会の加入率が減少 高岡市77%（10年で10%減少）

自分たちだけで活動できなくなってきた

少子高齢社会

とくに

少子化 ⇒ 人口減少 が問題

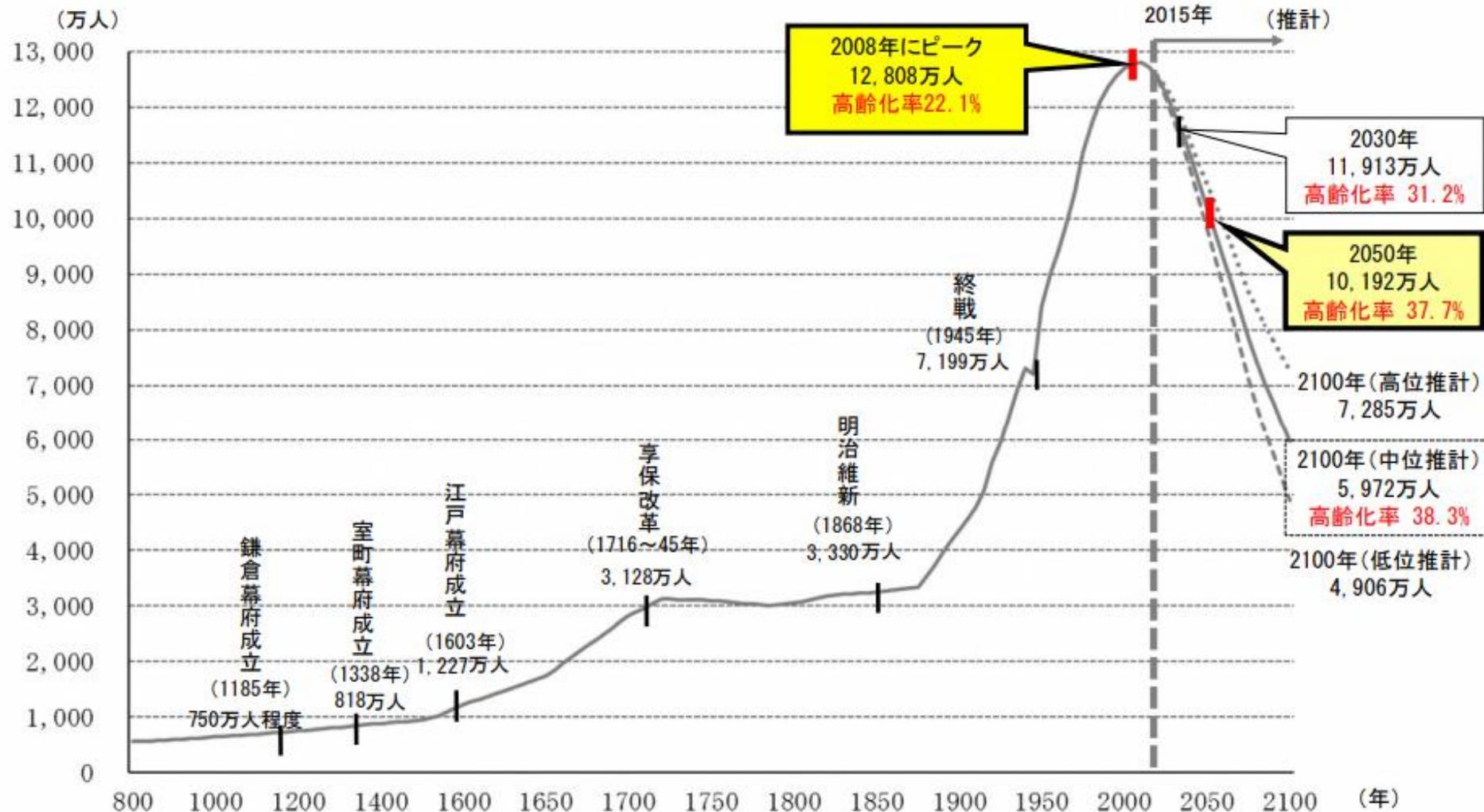


さらに

人口急減が大問題

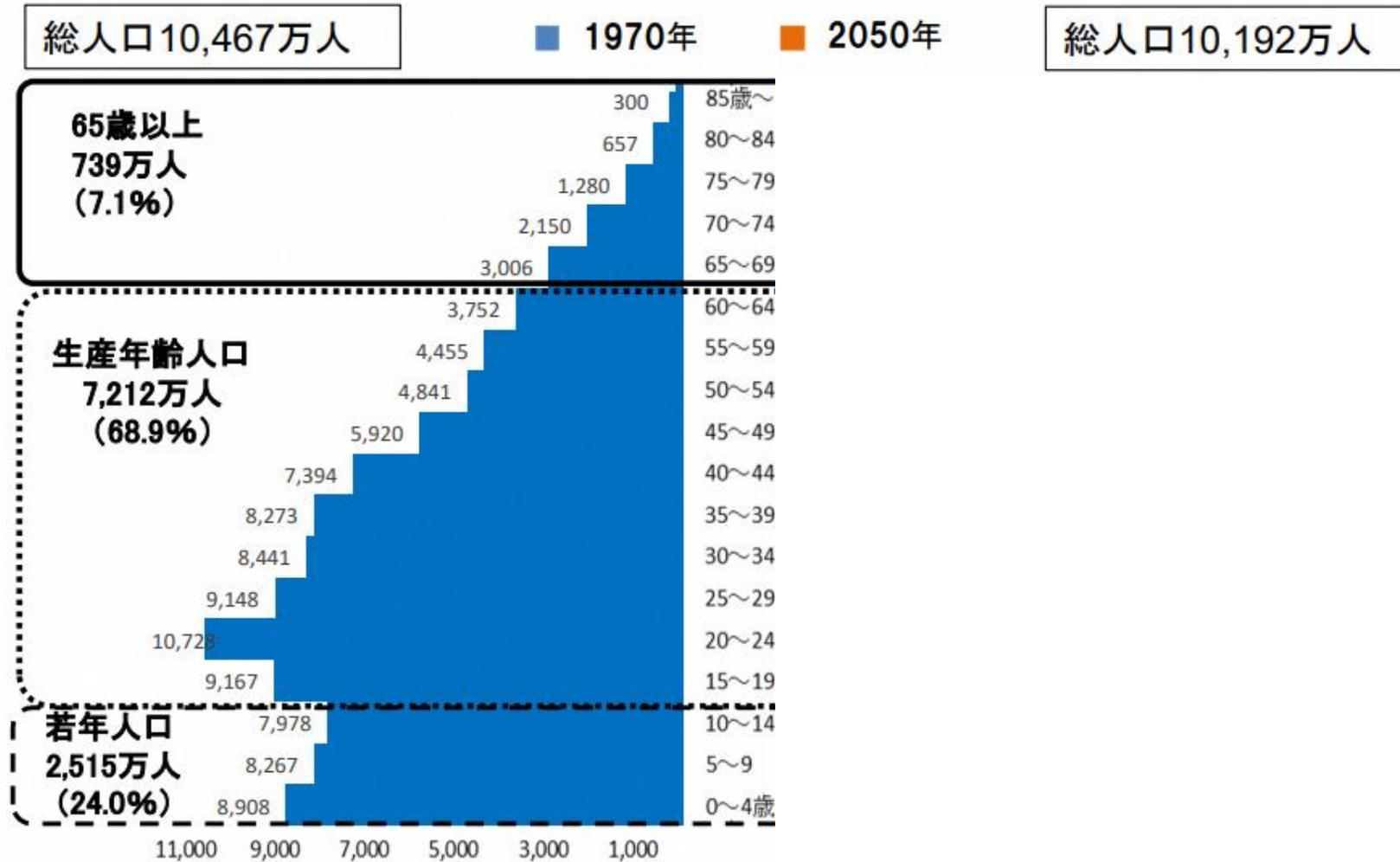
今までどおりでは維持できない

日本の総人口は2050年に2割減少



(出典) 1920年までは、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、1920年からは総務省「国勢調査」。なお、総人口のピーク(2008年)に係る確認には、総務省「人口推計年報」及び「平成17年及び22年国勢調査結果による補間補正人口」を用いた。2020年からは 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」を基に作成。

約1億人の国土でも、年齢構成が大きく変化



出典) 1970年は総務省「国勢調査」

2050年は国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計(平成29年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

国土交通省作成資料

75歳以上の3割、85歳以上の6割が要介護

地域を支える人



65～74歳

元気でアクティブ

加齢

支えられる人



75～84歳

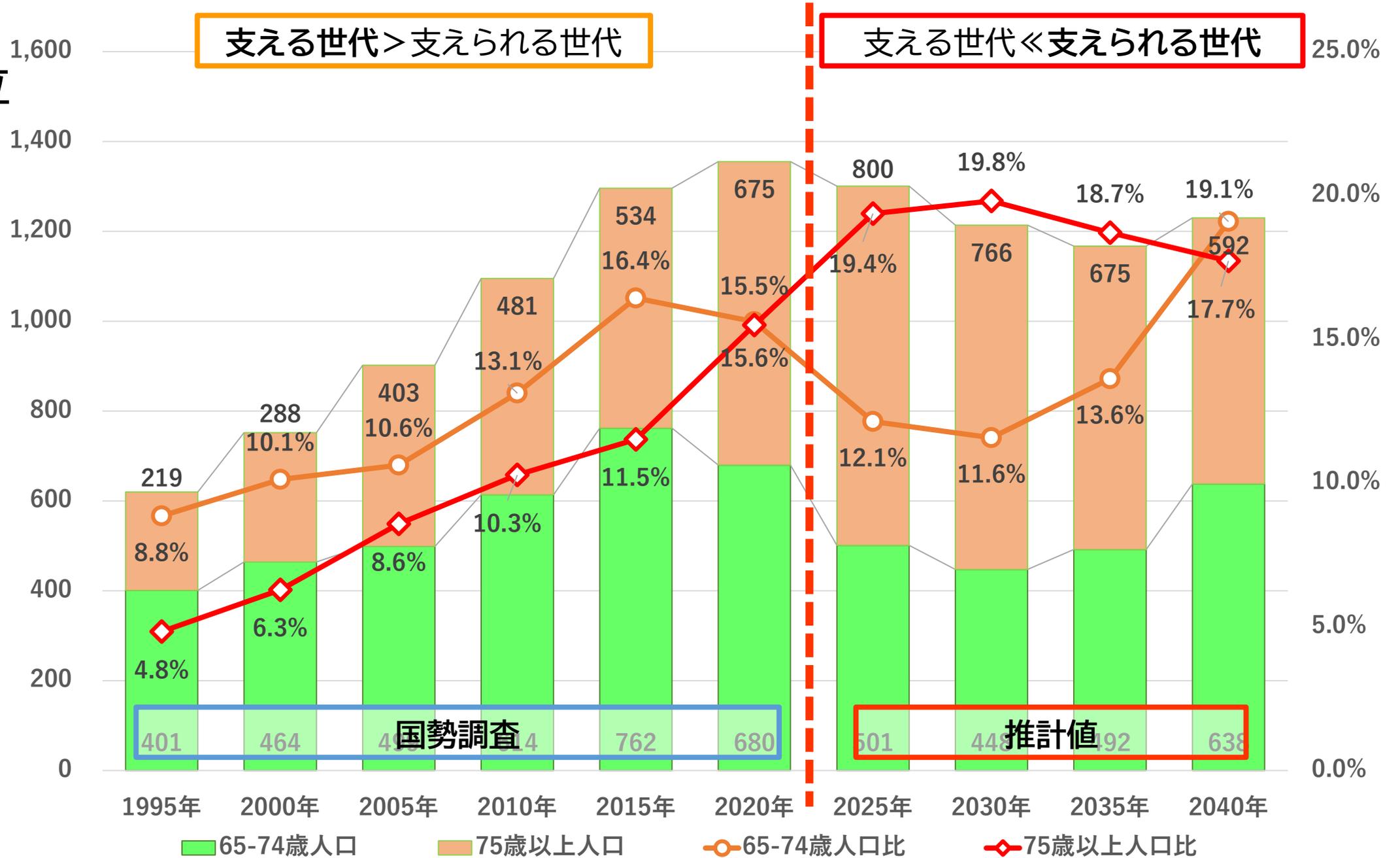
なかには介護が必要な人も



85歳

5人に3人は要介護

東五位

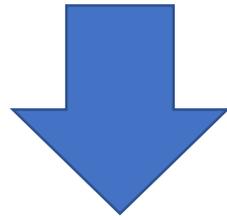


**地域を支える側の前期高齢者が減少
核家族化、定年延長**

でも…

組織や行事は従来のまま

今までとこれから は違う

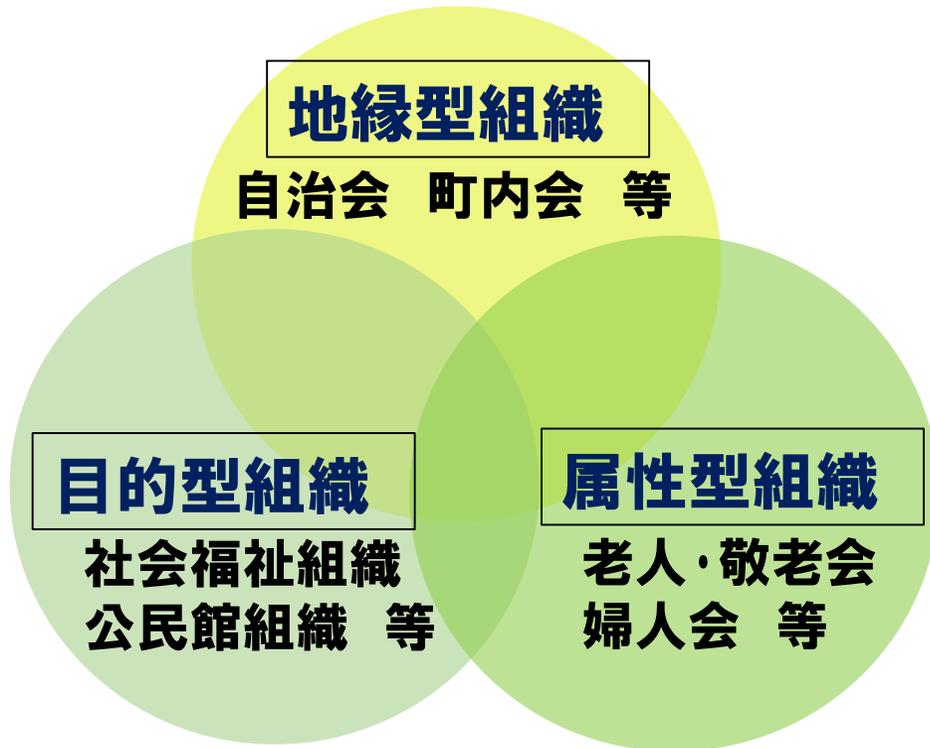


地域活動の効率化

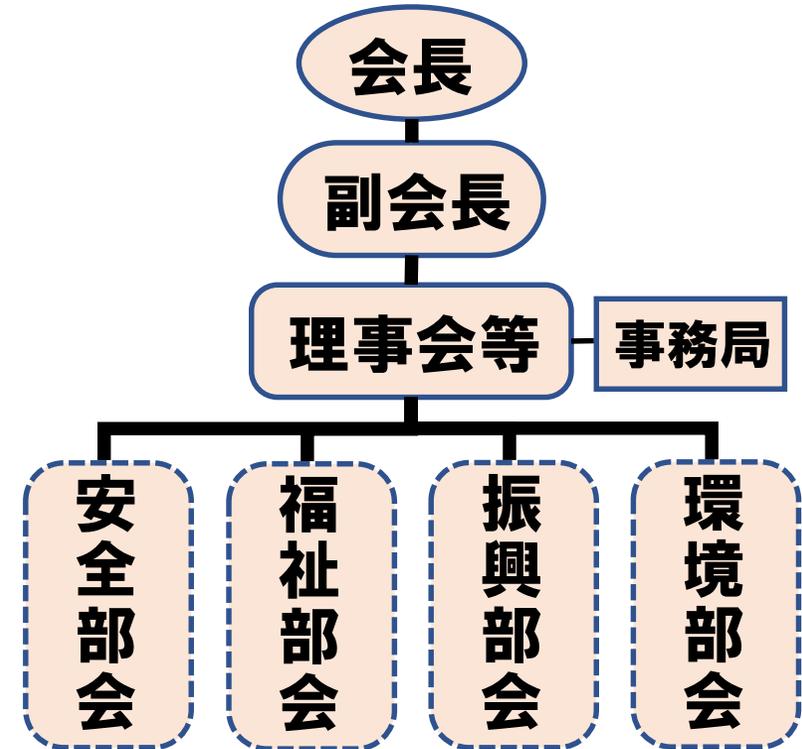
まとめてできることは、まとめてやる
ついでにできることは、ついでにやる

多機能地域自治

これまで



多機能地域自治組織
(地域づくり協議会)



単独で活動せずに、補完しながら活動する

事業やイベントの見直し/整理(重ね合わせ)

主体	月				備考
	4月	5月	6月	7月	
自治会	総 総会	草刈り	資 資源回収		担架運び、放水的当てを種目に加える 炊出し訓練の代わりに芋煮会
自主防災	総会			防災運動会 防災訓練	
防犯組合	総会 総会				合同開催
交通安全	総 総会				
消防団	総会				合同開催 収益は按分
PTA	総会		資源回収		
児童クラブ	総会		資源回収 回収		合同開催
				研修	
					合同実施
				見 見回り	

担架運び、放水的当てを種目に加える
炊出し訓練の代わりに芋煮会

合同開催

合同開催
収益は按分

合同開催

合同実施

地域運営の見直しで重要なこと

活動の目的や意味を共有

高齢者や今の担い手から
若い世代に伝える

地域の将来や課題を話し合う

ポイントは女性や若者、
子育て世代の参画

今の時代にあったやり方に変える

住民の声を捉えて、
活動に反映

できるところから見直し

やってみる
試してみる
ダメならやり直してみる

現状維持

＝

次世代への負担増

現状のやり方・仕組みを変えないことは
次世代の負担を増やし続けることと同じ

今、もとめられている地域づくり

人口減少 ▶ 担い手が減ることは不可避

単純に新しい活動等を増やす ではなく

活動や事業の見直し・再編

地域運営の見直し無しに 担い手不足は 解消しない!



ご清聴ありがとうございました

